

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-31283

(43) 公開日 平成7年(1995)2月3日

(51) Int.Cl.⁸

A 0 1 G 1/12

識別記号

庁内整理番号

A 9318-2B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-175723

(22) 出願日 平成5年(1993)7月15日

(71) 出願人 000000549

株式会社大林組

大阪府大阪市中央区北浜東4番33号

(72) 発明者 鍛冶沢 寛

東京都千代田区神田司町2丁目3番地 株式会社大林組東京本社内

(72) 発明者 田中 保雄

東京都千代田区神田司町2丁目3番地 株式会社大林組東京本社内

(72) 発明者 育柳 徹

東京都千代田区神田司町2丁目3番地 株式会社大林組東京本社内

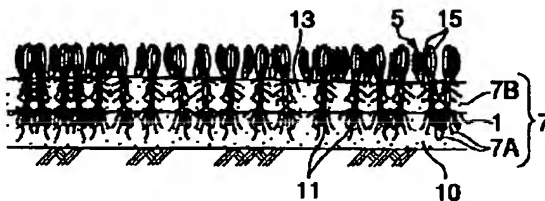
(74) 代理人 弁理士 一色 健輔 (外2名)

(54) 【発明の名称】 天然芝生の育成方法

(57) 【要約】

【目的】 芝生をマット状に育成し、巻き取って、他の場所へ移植する技術において、マット状の芝生の重量を軽くし柔軟性を高める。

【構成】 苗床10に多孔性のシート1を敷く。シート1の上に芝生種11を蒔く。種の上に土13を入れる。芝生種11が発芽すると、芝生の根7Aがシート1の孔にからみ、全体がマット状となる。シート1自体の重量が軽く、柔軟性に富むので、マット状の芝生5全体の重量を軽くでき柔軟性を高められる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 苗床に多孔性のシートを敷いて、その上に土を入れ、芝生種を蒔き、芝生の育成とともに芝生の根がシートの孔にからみマット状となるようにしたことを特徴とする天然芝生の育成方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、育成した芝生の回収や移植が容易なように、芝生をマット状に育成する方法に関する。

【0002】

【従来の技術】芝生を育成した後、回収し他の場所へ移植する作業などが容易なように、網状の敷物の上に土を入れ、芝生種を蒔き、芝生をマット状に育成させ、この敷物を巻いて芝生を回収し別の場所に移植する技術を、本出願人は考えている。又、細かな樹皮薄片を敷き詰めたものをベースとし、その上に芝生を育成してマット状にする技術も公開されている（特開昭53-75035号公報）。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、マット状の芝生を巻き取って回収する作業、あるいは巻き取ったシートを別の場所で巻き出して敷詰め移植する作業などは、巻いた状態の芝生の重量が大きいことなどにより困難となりがちである。又、従来技術の後者の技術では、マット状の芝生の柔軟性が乏しく、取扱いが容易でないと思われる。

【0004】本発明は、以上の問題点を解決するためになされたもので、マット状の芝生の重量を軽くでき、柔軟性を高めることができる天然芝生の育成方法を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明は、以上の目的を達成するためになされたもので、苗床に多孔性のシートを敷いて、その上に土を入れ、芝生種を蒔き、芝生の育成とともに芝生の根がシートの孔にからみマット状となるようにしたことを特徴とする。

【0006】

【作用】発芽した芝生種は、シートの孔を通して下根を苗床に延ばし、シートの上の土の中に根を這って、土の上に葉を延ばす。そして、シートと芝生と土がマット状になる。

【0007】

【実施例】以下、本発明の一実施例を図1乃至図5において説明する。図1に示すように、本実施例のシート1は幅が1.2〜1.8メートルで長さが20メートル程度の帯状をしている。シート1の材質は塩化ビニールであり、パンチングにより多孔性となっている（図2）。孔3の大きさは種々考えられるが、あまり小さいと芝生5の根7が苗床に向かって伸びにくく、余り大きいと伸

2

びた根7を支えにくい。又、孔3と孔3の間隔があまり大きいと、根7がからみにくい。間隔が小さすぎるとシート1全体の強度を弱めることになる。従って、シート1の肉厚とも関係するが、孔3の大きさ間隔は、芝生5の根7がからみやすくシート1の強度を弱めないような範囲に設定することが望ましい。

【0008】又、シート1の周辺には、他のシート1とジョイントするためのマジックファスナー9（登録商標）が設けられている。このマジックファスナー9は例えばシート1の長手方向に2メートル間隔程度で設けられる。そしてシート1の図中右側及び上側の辺では下向きに設けられ、左側及び下側の辺では下向きに設けられる。このようにマジックファスナー9の上下の向きを変えることで、隣り合うシート1がうまくジョイントできる。

【0009】以下、前記シート1を用いた芝生5の育成方法について説明する。まず畑などの苗床10に、シート1を敷く。このとき、前述したマジックファスナー9で隣り合うシート1がジョイントされ、苗床の広い面積をシート1で被う。そして、シート1の上に芝生種11を蒔く。その上から、土13を入れる。土13を入れることで芝生種11が風などで飛ばされることを防止できる。その後、水や肥料をやり所定の時間が経過すると芝生5が発芽し育成する。

【0010】育成した芝生5は、シート1の孔3を通して下根7Aが苗床10へ向かって伸びる。又、シート1の上の土13にも上根7Bが伸びる。このようにして根7がシート1にからむ。又、シート1の上の土13から芝生5の葉15が上方へ伸びる。このようにして芝生5、土13、シート1の三者が一体となってマット状となる。マット状となった芝生5は、単に端から丸めることで、巻き取ることができる。又、端部を芯材17に巻き付ける（図5）ことで端部を痛めないようにすることが可能である。即ち、単に端部を丸めただけでは、端部の曲率半径が小さくなり過ぎ芝生5を傷めるおそれがある。そこで、芝生5の端部を芯材17に固定して、巻き取りを行なう。この芝生5の芯材17は、中心に配置される鋼管19の外周に発泡スチロール21が設けられ、更にその外周に塩化ビニール管23が設けられる。そして、鋼管19の外周には半径方向に向かってフランジ25が形成され、塩化ビニール管23の内周には半径方向に向かってフランジ27が設けられ、両フランジ25、27の働きにより発泡スチロール21に対する円周方向の滑りを防止している。又、発泡スチロール21を用いることで、芯材17全体の重量を軽くできる。

【0011】塩化ビニール管17の外周には断面L字型の押え金具29が取り付けられる。押え金具29の内側には円錐状のピン31が設けられ、芝生5の端部を固定できるようにになっている。

【0012】従って、芝生5の端部を押え金具29に挿

3

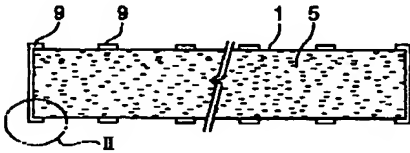
入しピン31により固定した後、芯材17を中心にして芝生5を巻き取れば、芝生5の端部を痛めることなく巻き取りを行なうことができる。

【0013】このようにして巻き取った芝生5は、そのまま他の場所へ搬送し、移植する。移植する場合には、巻いた芝生5を逆方向に回転させることで地面に敷き詰めていくことができる。又、移植ではなく、他の場所に仮置きすることもできる。即ちグラウンドを一時的に天然芝生の状態するために、マット状の芝生5を敷き詰めることもできる。

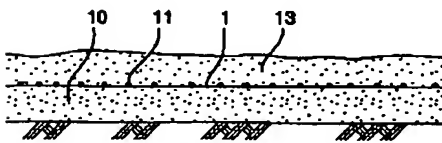
【0014】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の天然芝生の育成方法によれば、シートが従来の網状の敷物や樹皮薄片の層に比べ軽いので、マット状の芝生全体の重量を軽くできる。又、シート自体は極めて柔軟性に富むので、マット状の芝生全体の柔軟性を高めることができる。

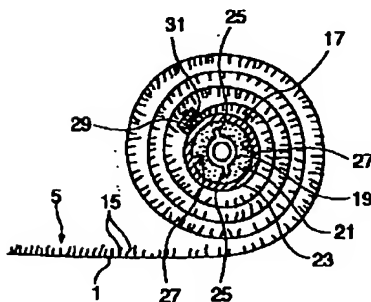
【図1】



【図3】



【図5】



4

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係るマット状の芝生の平面図である。

【図2】図1のII部拡大図である。

【図3】本実施例を示すための芝生の発芽前の苗床の縦断面図である。

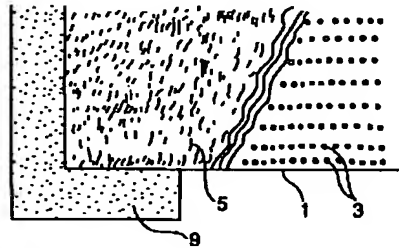
【図4】図3の発芽後における断面図である。

【図5】図4の育成されたマット状の芝生を巻き取った状態を示す図である。

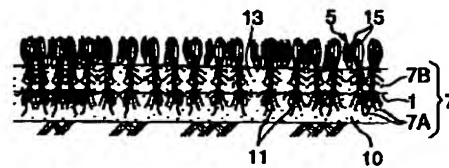
10 【符号の説明】

1 シート	3 孔
5 マット状の芝生	9 マジックファスナー
7A 下根	7B 上根
10 苗床	11 芝生種
13 土	15 葉

【図2】



【図4】



PAT-NO: JP407031283A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 07031283 A

TITLE: METHOD FOR GROWING NATURAL TURF

PUBN-DATE: February 3, 1995

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

KAJISAWA, HIROSHI

TANAKA, YASUO

AOYANAGI, TORU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

OHBAYASHI CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP05175723

APPL-DATE: July 15, 1993

INT-CL (IPC): A01G001/12

ABSTRACT:

PURPOSE: To decrease the weight of a turf mat and improve the flexibility of the mat in a process for growing turf in the form of a mat, winding the turf mat in the form of a roll and transplanting to the other place.

CONSTITUTION: A porous sheet 1 is laid on a seedling bed. Turf seeds 11 are sowed on the sheet 1 and covered with soil 13. When the turf seed 11 is

germinated, the root 7A of the turf is entangled with the holes of the sheet 1

to form the overall sheet in the form of a mat. Since the sheet 1 has light weight and high flexibility, the weight of the turf mat 5 can be decreased and the flexibility can be improved.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO